

○議長（森 弘秋君） これより、村政一般に対する質問並びに提出案件に対する質疑を行います。

通告順に発言を許します。

6番 竹島貴行君。

○6番（竹島貴行君） おはようございます。6番竹島貴行です。

毎日がコロナウイルスの感染者状況やワクチン接種状況、医療現場のひっ迫状況でニュースがあふれかえっていますが、このコロナの影響が経済や生活面など多方面に出ています。開催まで46日となりました東京オリンピックも、どうなっていくのか心配しているところであります。その影響で村の聖火リレーも中止となり、会場が集約されてのセレモニーに変更されました。願わくは、一日も早いコロナの終息です。

さて、これから、通告させていただいております質問を始めます。

まず、1つ目、新型コロナワクチン接種予約受付状況についてであります。

4月19日から始まった高齢者の新型コロナワクチン接種の受付で、村が上市町と共同で設けた受付センターに電話が殺到し、つながらないという混乱が続きました。5月16日時点でも、まだ電話がつながらないという話が聞かれました。

この混乱の中で村が取った対応について、まず説明を求めます。そして、予約受付開始当初、65歳以上の高齢者は600人程度と聞いていましたが、現時点で高齢者のワクチン接種希望者は、全て予約に結びついているのでしょうか。まだ予約ができていない人がいるとすれば、どれくらいの人数なのでしょうか。

次に、高齢者のワクチン接種が終わり次第、64歳以下の人たちにワクチン接種予約が始まります。予約が始まった当初は国からのワクチン供給量の情報はつかめないということで、村も混乱していました。現在はワクチン供給量も確保されつつあり、接種体制も順次整い、スムーズな接種に変わってきていると思います。接種形態も、村の集団接種のほか、県が実施する大規模接種や企業の職域接種、個人で行う個別接種と選択肢が広がってくると思いますが、予約の受付における村民の混乱は何としても避けていただきたいと思います。

高齢者予約受付時の混乱を村は学習できていると思いますが、同じ轍を踏まないため何か対策を考えていることを期待し、具体的にどう考えているのか質問します。

2つ目に、村長の選挙前に掲げた公約についてであります。

古越さんが村長に就任されて、半年が経過しようとしています。私自身、村長が選挙

前、村民に語られたことや、発行されたリーフレットやチラシに書いた物、いろいろあると思いますが、今でも村の人から村長の公約について聞かれることがあり、今後もあるかなと思います。

村長の公約は何であったのか、失礼ながら認識しておりませんが、この質問で公約について改めて確認をさせていただき、ご自身の公約をどのように実現させていくのか見解をお尋ねします。

3つ目に、G I G Aスクール構想の実践についてであります。

文部科学省が推奨したG I G Aスクール構想を推進するため、村ではハード面の環境整備を終えていると考えています。教育現場でその環境を生かし、構想に沿った教育を遂行していくということだったと思いますが、I C Tを活用した教育実践の状況、及びこれまでの教育手法が変革していくのだろうと思っていますが、教育現場で抱える問題点をどのように捉え、支援していくのか、教育長の見解をお尋ねします。

4つ目に、教員の働き方改革についてであります。

近年、教職員の週40時間を超える過剰な残業が全国的に問題として浮上しているそうです。この問題は、将来の教育界を担う若手の教員成り手不足につながっていると危惧されています。

そこで、まず舟橋村での教職員の過重労働実態についてお聞きします。また、教職員の業務負担の軽減にどのような取組がなされているのか質問します。

5つ目の質問であります。消防団員の確保についてであります。

消防団員の不足が、現に頑張ってくれている団員の負担増につながっているという話を聞きます。消防団は地域の安心・安全に欠かすことのできない存在であり、団員の負担軽減も併せて考えていく必要があると思います。

現在、少子超高齢化時代の中、多くの職業で若い人の成り手不足と人材不足が社会問題化してきています。消防団員への成り手不足もその一環です。働き方の多様化とともに若い人たちが地域に密着した消防団活動に、志はあっても物理的に参加することが無理であるという話も聞きます。

前消防団長であった村長は、この現状をどのように捉え、今後、消防団員不足にどう取り組みばよいと考えているのか、ご自身の見解をお尋ねします。

次の6番目の質問です。除雪対応についてであります。

5月1日発行の「議会だより」で、「35年ぶりの大雪！！」という見出しで特集記

事を掲載しました。村民の皆さんからは反響をいただき、特に現役世代が多く住む団地の皆さんから、除雪に対する要望も聞かれます。

除雪の担い手確保が厳しくなっている現実は否定できませんが、村は住民の生活に影響する除雪に対する要望に応えるため、今後の除雪に対して取組方を検討し、ニーズに沿った答えを導き出して対策を準備していくべきと考えます。特に排雪場所の確保が難しい団地からは、出勤前の早い時間の除雪と除雪によってできる家の前の雪の壁を解消してほしいという声が強く聞かれます。団地内道路の融雪装置取付け要望も年々増えていると感じます。

村は、各地区の要望に真摯に耳を傾け、できない理由を振りかざすのではなく、知恵を絞り、できる方法を何か見つけ出し、住民ニーズに応えられるよう対策を講じていくべきです。その点、どう考えるか質問します。

質問は以上であります。

○議長（森 弘秋君） 村長 古越邦男君。

○村長（古越邦男君） 6番竹島議員さんの、公約をどのように実現していくのかについて答弁させていただきます。

私の思いといたしましては、幾つかの重点項目を掲げて進めていくこととしております。

まず、医療・福祉において、村民の健康を守り、健康寿命を延ばし、健康ナンバーワンを目指すこと。そして、子どもは地域の宝物であることから、子育て世代が安心を実感できる教育・保育・子育て支援を実現すること。小さな村だからこそできる緩やかなつながりを実現していくこと。村民との協働による、安心できる地域社会を実現していくこと。持続可能な農業支援をしていくこと。災害への備えを実現していくこととあります。

各分野の具体的な方針といたしましては、まず医療・福祉の分野におきましては、村が無医村であることへの対応が重要であると考えております。現状といたしましては、近隣の市町に医療機関があるものの、車をお持ちでない方や、高齢者や体のご不自由な方からは、身近に医療機関がないことへの不安の声をお聞きしております。

一朝一夕にはいきませんが、誰でも安心感を持って過ごすことができるよう、かかりつけ医的な先生においでいただくような取組をまいります。

今は先生がいらっしゃらないため、高齢者の方が安心感を得られるよう、周辺市町に

ある医療機関への交通手段確保に向け、今年度、ニーズ調査を行った上で様々な可能性を検討してまいります。

次に、子育て世代への取組につきましては、近年、多くの子育て世代が転入し、人口が増加、出生率も向上いたしております。しかしながら、少子高齢化社会において、増加する高齢者の方々を支えるためには、これからも継続して一定程度の転入を維持していく必要があります。村が子育ての世帯の方に選ばれ、子どもを生き育てやすい環境になるよう努めてまいります。

次に、高齢者対策の分野につきましては、今後高齢者の皆さんが増えることが見込まれておりますので、さらなる対応が求められております。社会福祉協議会等の関係機関と連携しながら、介護・福祉サービスの充実を図るとともに、居場所づくりなどの生きがいの創出や地域での見守り体制の強化を図るなど、高齢者が安心して暮らせる地域づくりを進めてまいります。

次に、農業の分野につきましては、農家の高齢化や担い手不足などの課題が顕在化してきておりますので、若者や退職者も含めた新たな担い手の確保・育成に努めると同時に、関係機関と連携して農産物の販路拡大や特産化を進めるなど、持続可能な農業を実現するための必要な支援策を検討してまいります。

次に、防災の分野では、近年全国的には異常気象による災害が頻発しておりますが、県内では大規模な被害をあまり受けていないことから、村民の皆様の防災意識の低下が懸念されております。村民、行政、ライフラインに関わる関係機関等のネットワークを十分に生かして、防災に対する意識啓蒙、消防団や自主防災組織のさらなる強化、避難場所である舟橋会館及び京坪川河川公園へのWi-Fi環境整備など、災害に強いまちづくりを進めてまいります。

そして、今ほどご説明いたしました各分野における取組につきましては、村民の皆様へのきめ細やかなサービス提供や、ホームページや広報紙での丁寧な説明に努めてまいります。

あらゆる世代の村民の方が笑顔で元気で安心して暮らせるよう、村民とともに考え、議会の皆様と相談しながらまちづくりを推進してまいりたいと思いますので、皆様方のご理解とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、答弁とさせていただきます。

○議長（森 弘秋君） 教育長 早川誠一君。

○教育長（早川誠一君） おはようございます。

6 番竹島議員のご質問のうち、まずG I G Aスクール構想の実践の経過状況についてお答えいたします。

まず、I C T教育の実践状況についてご説明いたします。

児童生徒が一斉に学習する授業では、書画カメラといたしまして、実物を投影する、そういう小型のカメラがございまして、その書画カメラや教師用パソコンとつなげた大型モニターに、資料やノート、作品、観察物などの静止画や動画を効率よく映し出し、子どもがより分かりやすく学習できるようになっています。

また、個別に学習する場合は、タブレット型パソコンに取り込んだ学習支援ソフトを使って、子どもが自分のペースで漢字や計算のドリル学習を進めたり、情報を検索したりできます。教師は、個々の子どもの進捗状況やつまづきを把握しやすく、その子どもに応じた指導ができる利点がございまして。

さらに、先日中学校で参観いただきました指導者用デジタル教科書を使いますと、教科書の内容を拡大したり、回転させて見方を変えたり、また音声を流したりもできます。ご覧いただきましたように、子どもたちが同じ画面を注目し、学習に集中できるよさがございまして。

また、教師にとっては教材を準備する時間を短くでき、授業中も効率よく提示できるよさもございまして。

今後も、子どもたちの発達段階に応じて、このような実践が積み上げられていくものと考えております。

次に、教育現場が抱える問題点に対する支援についてお答えいたします。

1つ目は、新しい学習指導要領による新たな教科書の教材研究と併せて、I C T機器に係る研修も必要でありまして、それぞれで時間の確保が難しいという問題がございまして。いずれも慣れるまでの時間が必要でございまして、こちらで支援できることは、ほかの時間を軽減して研修機会を有効に活用していただけるように配慮することと考えております。その取組については、教職員の働き方改革に関連して、後ほど答弁いたします。

2つ目は、I C T機器が故障やフリーズした場合に対応できるかという問題がございまして。急ぐ場合は、昨年度に購入した予備機もございまして、それを代用して、後でI C T支援員とかG I G Aスクールサポーターに相談できる体制を確保しております。

ちなみに、I C T支援員は、基本的には中学校におりまして、週4日、半日の勤務、

それからG I G Aスクールサポーターにつきましては、本年度は週2日、半日の勤務ということで対応できるようにしております。

3つ目は、I C T機器が増えると教室が狭くなり、他の活動に支障があるので機器の常設が難しいという、こういう問題も出てきました。小学校からでございます。本村では、これまでI C T機器を移動せずに、すぐに使える環境整備を目指しておりましたので、場所を取る大型モニターを今後台から外して壁に設置するか、天井からぶら下げるとか、何か工夫が必要になってくるということが分かりました。今後、検討してまいりたいと思います。

いずれにいたしましても、G I G Aスクール構想では「多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、公平に個別最適化された学び」の実現を目指しております、今後も様々な問題にできる限り対処して、支援を続けてまいります。

この問いについては、以上でございます。

続きまして、教職員の働き方改革についてお答えいたします。

まず、本村の小中学校の先生方の実態についてでございます。前年度の状況でご説明いたしますが、ただし、前年度はコロナ禍での1年であり、4月中旬から5月末にかけて臨時休業といたしましたし、また夏季休業を16日間に短縮しております、通常の年度とは異なっております。

村教育委員会規則では、勤務時間の上限を月45時間以内、年間360時間以内としておりますが、平均45時間を超した月は、小学校では4回、中学校では6回となっております。年間の平均では、いずれも月45時間以内とはなっておりますが、学期末や学校行事がある月は45時間を超えております。また、年間360時間を超えている教員が小中学校いずれも72.7%となっております。

このように、コロナ禍で行事や出張が少なかった年度とはいえ、先ほどの上限方針を達成できていない状況でございます。

このような実態に対し、負担改善にどのように取り組むのかというご質問でございますが、本村では、一昨年度から村総合教育会議で実態を基に改善策を協議し、着手できるところから取り組んでまいりました。

この間、小学校にスタディメイトを、スタディメイトと申しますのは、個別に学習を支援する、そういった役割の方です。1名補充し、3名に。中学校に村採用の講師を1名補充し、技術科と家庭科を教えてくださいました。2名になりました。それから、

小中学校で活用できるGIGAスクールサポーター、先ほども出てまいりましたが、1名を補充し、ICTの専門職員を2名とし、人的な支援をしてまいりました。また、社会教育分野として「ふなはしテトラ協働本部」を設け、学校と地域との連絡・調整に係る労力の軽減を図っております。物的な支援としましては、ご存じのとおり、ICT機器や学習・校務の支援ソフト等を充実してまいりました。

しかし、先ほどの実態からは、上限方針を満たすためには、さらなる支援が必要でございます。そこで、小中学校で全日勤務していただいている全ての教職員を対象に、負担軽減につなげるアンケートという村独自のアンケートを今取っております。そこで忌憚のないご意見をいただいた上で7月の総合教育会議に諮り、可能なところから改善に努めてまいりたいと考えております。

これまでも申し上げましたが、村教育委員会としましては、教職員の働き方改革の手を緩めず、負担軽減につながる方策を工夫して、心身ともに健康で元気な先生方に本村の子どもたちの可能性を伸ばしてもらえる環境を引き続き整えてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（森 弘秋君） 総務課長 松本良樹君。

○総務課長（松本良樹君） 竹島議員さんの消防団員確保についてのご質問には、私のほうからお答えをさせていただきます。

まず、全国の消防団の現状について申し上げます。近年の少子高齢化、核家族化や晩婚化により、かつては200万人を超えていた団員数が、最新データである令和2年4月1日現在においては81万8,478人に減少しております。

当村におきましても状況は同様で、定数35名に対し、令和3年4月1日現在で30名となっております。

団員確保については、団員の協力をいただき、地域における積極的な声かけや各種訓練の見学、イベント参加依頼を行うなどの加入促進を図っておりますが、令和2年1月に30代の男性1名に入団していただいて以降は、新規入団者がいない状況でございます。また、現職団員の高齢化も進んでおり、団員確保については喫緊の課題であると認識しております。

村当局、消防団員においてもこの認識は共通しており、本年3月に舟橋村消防団のPRチラシを作成し、4月号広報紙に折り込み、全戸配布をさせていただいたところです。

配布しただけでは新規加入に直接に結びつくまでの効果は低いと思われるので、今後消防団及び消防団事務局が共同で戸別訪問し、消防団に対する理解と新規入団の協力を求めていく予定と聞いております。

いずれにいたしましても、消防団は火災や救助対応はもちろん、地域防災の要となるものでございます。今後も安定した団運営を継続していくため、村としても一層の団員確保の取組を強化してまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

○議長（森 弘秋君） 生活環境課長 田中 勝君。

○生活環境課長（田中 勝君） 6番竹島議員のワクチンに関する質問にお答えいたします。

初めに、65歳以上の高齢者のワクチン接種の予約に関して、コールセンターに電話が繋がらない状態が続き、住民の方にご迷惑をおかけしたことを深くおわび申し上げます。

今回、予約受付を外部委託するという初めての試みを実施いたしました。ふだんの舟橋村の人数しか想定せず、予約電話が繋がらないという事態につながったのが一つの要因と考えております。また、今回、想定よりも多くの方が早期に接種を希望されたということ、また上市町さんの住民数を正しく認識していなかったことで混乱を招き、住民の皆様には、何度電話をかけても予約ができず、疲弊させてしまったことや、接種できないのではないかと不安な思いをさせてしまい、大変申し訳なく思っております。

今回の反省を踏まえ、次の接種予定で、基礎疾患をお持ちの方や60歳から64歳までの方は、書面での郵送の申込みを検討しております。接種申込書と案内文を全世帯に送付し、基礎疾患等の必要事項を明記していただき、希望される曜日を記入して、上市町保健センターに郵送していただきます。接種日が確定したら、予約票、接種券等を舟橋村役場から送付いたします。長所として、定員超は抽選となりますが、早い者勝ちではないため、慌てずに予約が可能。また、電話でつながりにくい煩わしさの解放が挙げられます。

また、今後の一般の方の接種についてはインターネットでの予約を考えております。舟橋村住民がスムーズにワクチン接種ができるように検討してまいりますので、議員のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

次に、今後の除雪対応のご質問にお答えいたします。



本年1月の大雪は富山県で35年ぶりの大雪となり、交通網が大混乱となったことから、人々の日常生活に多大な影響を与えました。

本村でも、1月7日から8日にかけて比較的短時間に降り積もった雪が原因で除雪対応が間に合わず、雪の壁及び圧雪、スタックと呼ばれる、雪にはまり車が立ち往生する状態となり、住民の方に大変ご迷惑をおかけしたことを深くおわび申し上げます。

消防出初め式が中止となり、成人式も延期、小中学校が臨時休校になったほか、農業用ビニールハウスの倒壊や樹木の枝折れが多数見られるなど、多くの被害も確認されました。

村内の除雪対策としては、車道除雪を6つの事業者で行い、歩道については2つの事業者へ委託しております。除雪出動の基準としては、積雪量が10センチを超える場合に出动しており、早い段階で大雪となる見込みの場合は、基準に到達する前から除雪出動の判断を下しております。

基本的には、通勤や通学の時間帯に間に合うよう、そして作業の安全面の確保の点から、深夜の交通量が少ない時間帯にかけて集中的に除雪作業を行い、住民の皆様の生活に支障がないよう作業を行っておりますが、今回の大雪は想定を大幅に超えたものでした。

村では、今回の大雪を踏まえ、村民の皆様の生活に支障が出ないように、関係者に聞き取りを実施し、問題点の洗い出しを行い、効率的な除雪方法について対応を検討しております。

ただ、道路除雪の最大の目的である消防や救急等の緊急車両の通行を最優先するため、宅地前の残雪等の除雪には、皆様方のご理解とご協力をお願いしたいと考えております。

また、住宅団地内にある消雪設備も、車の通行がなければ散水した水が攪拌されず、融雪効果が出ない場合があるため、今回のような大雪では十分な効果が発揮できない状態でした。

それで、今後は、現在幾つかの地区で実施している村の除雪機械の貸与事業を活用していただき、官民一体となった作業が行えるよう、自治会の皆さんにもご協力をお願いしたいと考えております。

議員ご指摘のとおり、除雪の担い手の確保も年々厳しくなっておりますが、村民の皆様の日常生活への影響を最小限に食い止めるため、地区住民や関係機関と連携した除雪作業を進めることにより、これからの大雪に備えていきたいと考えておりますので、

ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

○議長（森 弘秋君） 竹島貴行君。

○6番（竹島貴行君） ただいまの答弁に対して、幾つか再質問させていただきます。

まず、コロナワクチンの受付対応であります。前向きな取組をされているのかなというふうに思いますが、私がお願いしたいのは、やはりインターネットとか、直接予約がしづらい人たち、そういう人たちに対して、村が予約にしっかりとつなげていただくという、そういう対応をお願いしたいと。取り残しのないように対応をお願いしたいかなというふうに考えております。そういう点について、再度何か答弁をお願いしたいと思います。

それから、教育長の答弁についてであります。これからG I G Aスクール構想というのは、大きな教育の仕方の変革があるんだろうなというふうに感じているところであります。文部科学省が新しく出した教育指導要綱には、この中に重点施策としてアクティブラーニングの実践をうたっているわけでありまして。それが、このG I G Aスクール構想のI C Tを活用して、どんどん、どんどん進化していく。そこにA Iも加わってきて、ますますこの教育が子どもたちにとっても面白いものになっていけば、またアクティブラーニングが深まっていくというふうに考えております。

ただ、そこで危惧することは、こういうことがどんどん前へ進んでいくと、教育の横並びではなくて、学校間格差、それから地域間格差が心配されるところであります。格差が生じてくれば、その不利益を被るのは子どもたちであります。そういう点、教育現場も大変かと思いますが、しっかりと対応していただきたいというふうに考えます。

それから、消防団の団員の確保について答弁いただきました。答弁を聞いていますと、団員の確保は、これまでと同じことをやろうとしている。これは、多分団員確保は難しいだろうなというふうに考えております。

私は質問におきまして、この少子超高齢化時代の中で、人口減少していく中で、人をどういうふうに確保していくかということを考えて言いましたけども、要は、消防団員の活動もやり方を変えていくというか、発想を変えていくと。発想を変えることによって、消防団員が担う役割を果たしていく。今、団員が少ない中で頑張っている団員の負担も軽減を図れるんじゃないかと。

例えば消防団員、消防団活動の内容については、総務省の消防庁のホームページに書

いてありますが、それを見ますと、活動は全て若い人でなければならないという、そういうものでもありません。随時できるところを、自治体、地域社会として、お互い共助という、そういう観点から、いろんな人に役割を担っていただくということも一つの方法ではないかというふうに考えております。

また、この消防団の負担を軽減するために、本職である消防署員を増やすという、消防強化ですね。これは、私も富山県東部消防組合の議会に10年ほど出ていますので状況把握をしているつもりであります。2市1町1村の組合において、この組合をどういうふうに強化していくか。これが大事かなというふうに思います。

今、本職の消防も人手不足、24時間態勢で、ぎりぎりのところで対応しているという現実を聞いております。そこを、村長も副管理者の一人として組合に出ていっておられるわけですから、ほかの首長さんに働きかけて消防力を強化するという、そういうことも考えていただきたいなというふうに思います。

ほかの地区でも同じような、消防団員の確保が難しいということで悩んでおられるという、そういう実態がありますので、よろしくお願いします。

それから、除雪についてであります。担当課長から、業者への委託という、そういう話もありました。委託していかざるを得ないのであります。業者は重機を動かして排雪していくわけでありまして。そこをもう少し村も力を入れて、重機プラス人、作業員さん等もお願いして、重機の補助として動いていただくということも考えていただいてもいいんじゃないかなというふうに私は思った次第であります。そのところも検討をしていただきたいというふうに思いますが、これについても再度答弁をお願いしたいと思っております。

以上であります。

○議長（森 弘秋君） 生活環境課長 田中 勝君。

○生活環境課長（田中 勝君） 竹島議員の再質問にお答えいたします。

今現在予約されていない65歳以上の高齢者に対しては、接種勧奨として、はがきによる案内を送付する予定であります。その中で社会福祉協議会、または民生委員さんの協力を得て、予約を取っていただけるよう、接種を希望される全ての方が接種できるように努めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、除雪対応については、舟橋村は排雪場所が中学校に1か所しかございません。費用的なものも含めて今後検討してまいりたいと思っておりますので、ご理解のほどよろしく

お願いいたします。

○議長（森 弘秋君） 教育長 早川誠一君。

○教育長（早川誠一君） 私からはG I G Aスクール構想関連で、今議員さんから、アクティブラーニングの始まりということで、おっしゃいました。そして、学校間、地域間での格差が生じるのではないかという、そういった危惧をされているということでした。

先ほどもご説明したI C T関連は、昨年度、このコロナ禍により急激に進みました。逆に言いますと、タブレット端末にしても、全国ほぼ100%行き渡る、1人1台頂けるということで、使えるということでございます。

そういった環境が整ってきたことに併せて、新しい学習指導要領の中に先ほどのアクティブラーニングが入ってくるわけなんですけれども、これも、そもそも学習指導要領は、全国の基準を標準化すると。学力に対しても同じように進むということでの試みなので、そういったことも併せますと、先ほど危惧されたことについては、そんなに心配はないかと思っています。

ただし、I C Tが先ほど、研修は時間を要するので、最初多少の時間は差は出るかもしれませんが、この後標準化されていくということは、ほぼ間違いないと思っております。

以上でございます。

○議長（森 弘秋君） 村長 古越邦男君。

○村長（古越邦男君） 竹島議員さんの消防団員の件につきまして、お答えをさせていただきます。

団員には大変ご苦労かけていることは事実でございますが、私も団員として経験がございますが、職員、現在定員を割っておりますが、機能別団員等の皆さんにもお願いをして村の安全・安心を守っていくという形のことを取っておりますので、ご理解のほどをいただければというふうに思っております。

また、東部消防組合職員の増員につきましても、構成団体の長の方に、こういう状況だということもまたお伝えしたいというふうに考えておりますので、ご理解のほどを賜りますよう、よろしくをお願いいたします。